

- 季刊 -

04

FUKUYA
in KOCHI

2025.9

TAKE FREE

Fuu

あなたの暮らしに、新しい風

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE

〔特集〕 暮らしに、和をすこし



フリーマガジン「Fuu」

編集／フクヤ建設株式会社（担当）広報課 石川 藍

デザイン／2.0design 高木恵里

写真／エム・フォトオフィス 前田実津

〔発行元〕

フクヤ建設株式会社

〒781-0015 高知市薊野西町3-35-29

☎ 088-845-4618

✉ fukuya@fukuya-h.co.jp

📷 @fukuya.kochi

📺 フクヤ建設 🔍



特集

暮らしに、和をすこし

朝の光を受けて障子がやわらかく透けるとき、
縁側から季節の風がすっと流れ込むとき。

そんな小さな場面に、暮らしに「和」をすこし取り入れる
心地よさを感じます。

今回の特集では、スタッフが暮らす平屋の自邸を紹介しながら、
素材やしつらえ、間取りから感じる暮らしの心地よさをご紹介します。

さらに、リノベーションで時間を積み重ねる住まいや、
新しい展示場づくり、盆栽の飾り方や建具職人の手仕事、
子育てや日々のおやつなど、和の感性をまとった

暮らしのヒントをさまざまな角度から。

巻末には、社長の読書コラムもご用意しました。

便利さに囲まれる今だからこそ、昔から受け継がれてきた
丁寧さややさしさに目を向けてみませんか。

フクヤ建設の家、ひと、暮らしを伝える
フリーマガジンFuu(フウ)は「あなたの暮らしに
新しい風を吹かせますように」そんな思いで、

2023年6月に創刊しました。

日々さまざまな角度から暮らしを考え提案し続ける

当社の働きから、これからの暮らしや

人生を楽しむヒントが見つかりますように。

そして、このマガジンを手にする時間が「ふう」と心

安らぐものになればうれしいです。

CONTENTS

特集

[スタッフコラム]

わたしの平屋暮らし	03 - 08
時をつむぐ暮らし	09 - 10
「まち」をつくる	11 - 12
あのひとの飾り方	13
すまいとこそだて	14
フクヤで働く、フクヤと働く	15
社長の本棚	16
melbaの、おやつ	17

わたしの平屋暮らし

Staff Column

フクヤ建設 広報課 石川 藍



ずっと心地いい、
平屋の住まい

家を建てるなら、迷わず平屋にしたいと思っていました。動線がシンプルで、暮らしやすいこと。そしてどこにいても家族の気配を感じられる安心感があるからです。祖母の畑だった120坪の敷地に建てたわが家は、縁側や切妻屋根のある素朴な姿。シンプルで飽きのこない形は、長く暮らしても心地よさが続いていきます。帰ってくるたびに「やっぱり自分の家が一番」と思えるのは、この家がわたしたちにじっくり馴染んでいるからかもしれません。無垢材の床は少しずつ色艶を深め、障子越しの光は季節によって表情を変えます。日々の小さな変化が積み重なって、暮らしそのものが豊かになっていくことを実感しています。

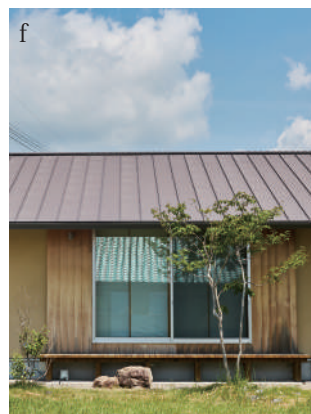
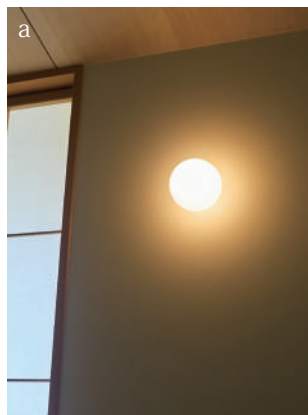
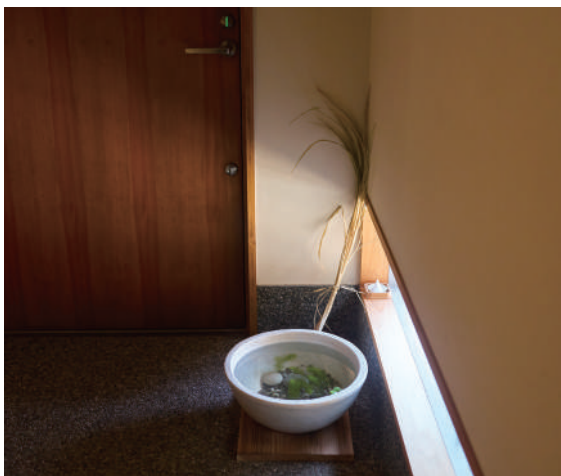
暮らしを

大切に理由

入社して12年、多くのお客様さまの住まいに関わってきました。どの家にも共通してあるのは、やっぱり温かい空気感。それは「和」の心にもつながるものだと感じています。だれにとっても長く心地よく暮らせる住まいを考えたとき、たどり着いたのが平屋でした。動線のわかりやすさや家族との距離感は、日々の暮らしに穏やかさを与えてくれます。これまで自邸を通して発信をしたり、お客さまをご案内する機会もありましたが、今回あらためて誌面で紹介するのは、暮らしを大切に思う気持ちをもう一度見つめ直したかったからです。読んでくださる方にとっても、それぞれの心地よい暮らしを考える小さなヒントになればうれしいです。

余白が育てる、 わたしたちの時間

暮らしの中で実感しているのは、余白があることで新しい楽しみが広がるということです。夫は近ごろ、ひよんなきっかけからミシンを始めました。北側の書斎カウンスターは、もともと子ども二人が並んで勉強できるようにとつくった長さ260センチの造作。今ではその一角がミシン作業の場となり、娘の学校用品や、友人に頼まれた小物をつくる時間を楽しんでいます。集中して取り組むその姿は、暮らしに新しい彩りを添えてくれました。わたし自身も数年前から着物を習い始め、畳リビングで月に一度、着付けのレッスンを受けていました。今は少しお休みしていますが、テレビ台下の収納が着物の居場所となり、暮らしの一部に馴染んでいます。家を建てる前には想像もしなかった趣味や時間が、余白のある間取りに自然に育まれ、家族それぞれの時間を深めてくれます。



a.壁(珪藻土)/ 灯りに照らされ陰影がやさしく浮かぶ塗り壁。LDKだけを塗り壁にしたが、調湿作用も心地よく、光や影の表情が美しいのもお気に入り。
b.障子/ やわらかな光を透かし、季節を映す白い屏風。閉めていても室内は明るく、夜に外から眺める景色も良い。
c.床(無垢材)/ 素足に広がる木目のぬくもり、時と共に深まる色。杉材は柔らかく傷はつきやすいが、年中スリッパなしで過ごせる気持ちよさがある。
d.木製建具/ 手に馴染む木肌と直線的美が、空間を整える扉。造作建具や収納は家全体と調和し、あめ色に変化。どれも暮らしに自然と収まっています。
e.軒天/ 切妻屋根を支え、陰影で外観を引き締める軒天。外から見ても、部屋の中から見上げて癒される存在。
f.植栽(落葉樹)/ 窓辺に揺れる枝葉が、四季のうつろいを知らせてくれる。メインのアオダモは特にお気に入り。新緑も花も実も、季節ごとの楽しみをくれる。

素材感にはこだわりました。入社前に訪れた展示場で出会った塗り壁のやさしい雰囲気。に惹かれ、珪藻土を迷わず選びました。やわらかなクリーム色の壁は、夜に照明を受けると陰影が浮かび上がり、訪れる人からもよく褒められます。年月とともに小さな汚れや削れは増えましたが、それも家族の痕跡として愛おしく思えます。天井や建具もできるだけ本物を選び、今では全体が少しずつあめ色を帯びてきました。庭には落葉樹を三本だけ植え、窓辺に季節の変化を映すようにしました。春の芽吹きや夏の緑、秋の紅葉や冬の枝ぶり。室内からその景色を眺めると、変化を受け止めながら暮らすことのたのしさを感じています。

本物がもたらす豊かさ



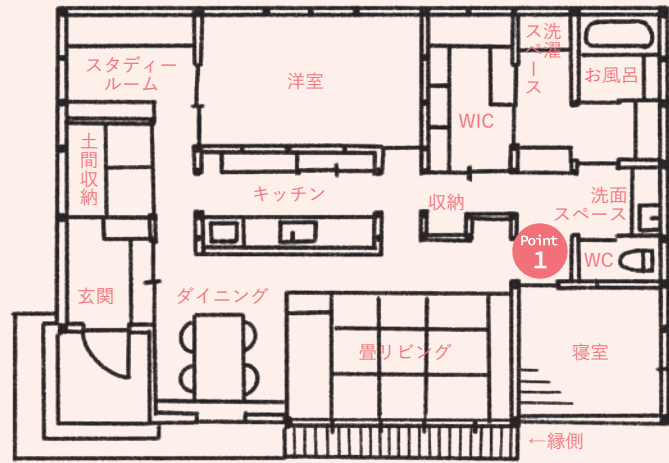
石川邸

ご家族構成／4人
施工年／2020年3月
延床面積／29.16坪
構造／木造平屋建て

住まいはつくった瞬間に完成するものではなく、日々の積み重ねの中で少しずつ深まっていくものだと思います。窓からの景色や縁側で過ごす時間、季節ごとに表情を変える素材や植栽——そんな小さな日常の積み重ねが、家をかけがえのない場所にくれました。普遍的でシンプル、けれど余白やわらかさを残した平屋は、年代を問わず「このまま住みたい」とおっしゃっていただけでもあり、そう感じ

ていただけるのが何よりうれしいです。まだ築五年ですが、経年とともに深みを増していく姿を愛しく感じています。日々の暮らしの中で「やっぱり家が一番」と思える瞬間があること——その過程を大切にできるからこそ、フクヤ建設の家の魅力であり、私が暮らしを大切に思う理由です。休日には家族で朝ごはんを囲むひととき、そんなやさしい時間を重ねながら、これからも暮ら

小さな日常にひろがる、やさしい時間



「間取りのこだわり」

ちかくにある、安心

平屋はすべてが近く、回遊できる動線がとにかく便利です。日々の家事が楽になるのはもちろん、病気やけがのときにも安心。今年、夫が骨折して退院した後、生活のすべてがワンフロアにあることで無理なく過ごせました。プライバシーが少ないのは正直なところですが、それもまた魅力。閉じこもるのではなく、自然と外に散歩に出たり、子どもが家の中をぐるぐる走り回ったり。家族みんながのびのびと暮らせることが、この間取りのいちばんの安心です。



畳リビング、実際どうなの？

実家が畳リビングだったこともあり、自然と畳を選びました。和室となると使うハードルが上がりますが、リビングなら毎日の暮らしの中心に。南向きの畳リビングは日焼けもしませんが、思いきり使える心地よさがあります。赤ちゃんのころは転んでも安心で、子育てにもびったり。今では娘が小学生になり、家族でかるたやトランプを楽しむ場にもなっています。造作ソファと組み合わせた個性的な表情も気に入っていて、年中ごろごろとくつろげる畳は、暮らしの自在さと懐の深さを感じさせてくれます。



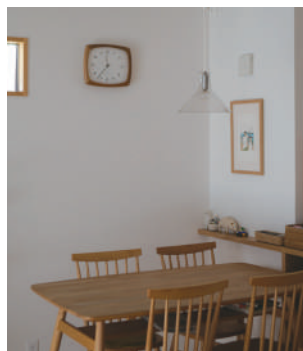
住みついで家に、
新しいひかりを

ご主人のお父さまが建てた住まいには、家族の思い出がたくさん刻まれていました。けれども年月を重ねる中で、収納の不足や光の入り方に物足りなさを感じるように。奥さまは一時、新築での建て替えも考えていましたが、やがて「今ある家を生かして暮らしたい」と気持ちが傾いていきました。そこで選んだのがリノベーション。外壁には、当社が標準仕様として提案している塗り壁・ジョリパットを採用。その温かな質感に心惹かれたことが、今回の家づくりの大きな後押しとなりました。



After POINT

〔和と北欧がであう、新しい心地よさ〕



POINT 01

和と北欧がなじむ
リビング&ダイニング

北欧スタイルが好きだった奥様。和の要素を少し取り入れたことで、想像以上に心地よい空間になりました。好きな雑貨や植物を飾ることで、家にいる時間がますます楽しく。余白を活かしたすっきりとした空間に、和と北欧の家具が自然に溶け合います。



POINT 02

外壁が変わる、
住みつく姿

ジョリパットの塗り壁が生み出すやわらかな陰影と木のアクセントが、外観の印象を大きく変えました。明るさと上質さを兼ね備えた佇まいは、外の植栽ともよくなじみ、穏やかな周辺環境にしっかりと溶け込んでいます。



POINT 03

光とぬくもりに
満たされて

断熱性や遮音性の高い窓に変えたことで、光と風が心地よくめぐり、明るく開放的なリビングに。家族みんなが自然と集まる場所で、奥様が一生ものとして選んだ「ハグみじゅうたん」に素足でくつろぐ時間が、暮らしを豊かにしてくれます。



時を
つむぐ
暮らし



森野様邸

家族構成／4人
リノベーション施工年／
2024年7月
構造／木造二階建て
延床面積／34.3坪



「過去に引っぱられそうになるたび、新しい景色を探してきた。」

左より
戸建事業部設計デザイン課
内田・組坂・大原

”
座ると、
景色が立ち上がる
“



展示場のデッキは、フクヤ建設のロゴマークをかたどっています。子どもたちが「これは？」と気づいてくれたら嬉しい。そんな小さな発見が、場に親しみを添えます。

住宅をただ見せるのではなく、思想をかたちにし、共感をひろげる場にしたい——その想いから始まりました。設計デザイン課のみんなが案を持ち寄り、何度も描き直し、消してはまた描く。過去に引っぱられそうになるたび「同じ考え方ではないけれど」と互いに問い直し、県外の建築を訪ねて視点を広げました。「森や公園」という核はぶれず、住まいるパークの展示場を移築する挑戦も重ねました。手仕事の多いフクヤ建設にとって移築は大変ですが、それこそが強み。移築そのものが、リノベーションの可能性を示す試みでもあります。南棟は住宅の正解を並べる場ではなく、座ると見えてくる景色やゆったりとした時間を体感できる場所。訪れる人それぞれが自由に感じ取れる——そんな余白を大切にしています。

“文化と交流が息づき、ひとが集う場所へ”

南棟の先には、飲食やラウンジに加え、事務所や打ち合わせスペースを備えた北棟が続きます。ラウンジでは、休む・集う・学ぶが自然に混ざる。物販やワークショップを通じて暮らしの小さな更新が生まれ、建築OBさまも気軽に立ち寄れる場となります。ここでは誰もが同じ目線で、心地よく過ごせる雰囲気大切にしています。夕暮れには木陰に灯りがともり、ひと息つく時間が流れる。展示場を越えて、人が本来求める気持ちよさや美しさを感じ直す場所。そして文化とコミュニティが育っていく場所になればと願っています。

未来の“まち”を描く

最新情報は、
フクヤ建設
公式Instagramにて



運営 : フクヤ建設
所在地 : 高知市南久保 6-2
卸団地内
(南棟/北棟(順次))
オープン : 南棟 2025年 9月27日

フクヤ建設の展示場・コミュニティ拠点

ヴィレ

VILLE

高知 卸団地に、暮らしと文化が出会う新しいまちが生まれました。



「まち」をつくる

No.04

ただ展示場を見学するのではなく、
公園にふらっと立ち寄るように来て欲しい

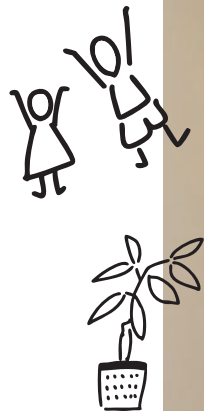
なぜ卸団地に？

もともと工業団地だったこの場所はいま小売が可能になり、倉庫をいかした店舗も増え、懐かしさと新しさが混ざる空気が育っています。ここに、誰もが気軽に寄れる「まちの止まり木」をつくりたいと考えました。住まいるパークの展示場を移築し、主役は人と緑に。大きなクスノキのそばに建物を置き、広い間口から光や風を招きます。まずは木陰に座り、この場所の心地よさを体感してほしい。人が本来求める美しさに触れるきっかけになればと願っています。社長の想いはシンプルです。「ただ展示場を見学するのではなく、公園にふらっと立ち寄るように来てほしい。」その言葉どおり、将来は北棟にカフェや物販を備え、家づくりの前段階でも「好き」や「心地よさ」に出会える場所に。公園に寄るように来られる展示場をつくりたい——そんな想いから、この卸団地を選びました。

すまいと
こそだて



テーマ
「子育てと和のある暮らし」



文・写真 / 山本 未優さん(2020 年4 月竣工 当社新築OB さま)



コラムを寄せてくださった山本さまの、子育てと暮らしのこを綴るInstagramもぜひご覧ください。



@_____iiitttt04

子ども2人を育てる中で、隣に住む祖母に日々助けられています。朝の支度や保育園の送り迎え、ちょっとした相談まで。そうして過ごす毎日のなかで、自然と家族が集まるのは量のある部屋です。気がつけば、朝の着替えも、お風呂上がり、のくつろぎも、祖母と孫のお昼寝も、みんな量の上。量のやわらかさや香り、そして静けさが、家族をやさしく包んでくれます。量の上で過ごしていると、「和ってこういう穏やかさなのかな」とふと思えます。何気ないひととき。その一つひとつが、子どもたちにとって心の拠り所になっている気がします。つい、便利さを優先しがちな毎日ですが、こうして「和」を感じられる時間があることで、子育てはよりあたたく、心に残るものになっているのだと感じています。



園芸教室講師。盆栽教室や苔玉制作を通して、伝統的な園芸の魅力を暮らしに広めている。

あのひとの飾りかた

interior coordination

園芸教室講師 福川 直人 さん

盆栽、
はじめませんか。



1



2



3



1. 柔らかな笑顔と誠実な手仕事が魅力。帽子がトレードマーク。
2. 教室会場「日口(にちぐち)」オーナーの助言から生まれた、人気の苔キューブ。
3. 伝統園芸の歴史を記す希少本。長年愛用してきた大切な一冊。

盆栽教室やイベントの
お知らせはInstagramを
ご覧ください。



@fukugawa_naoto

牧野植物園で約20年勤務し、その大半を日本伝統園芸植物と向き合ってきた福川さん。祖父の家の本棚で偶然手にした一冊の本が、盆栽への道を開ききっかけとなったという。趣味として始めた盆栽はやがて職業となり、人生そのもののひとつながりになった。植物園勤務時代は、1グループ(50鉢程度)の展示を支えるために、多いものでは1000鉢を常に確保しておかなければならないこともあったという。わずか1か月しか「日の目を浴びない」植物にも光をあて、丹念に手入れを重ねた日々。その経験が、今も変わらぬ「植物とまっすぐ向き合う姿勢」につながっている。福川さんの盆栽は、気取らずやさしい雰囲気をもとに、暮らしに自然と溶け込むものばかり。公園で拾った松ぼっくりから芽生えた松や、雑草と呼ばれるツル性植物「カニクサ」など、素朴で親しみやすい素材が多い。苔キューブなどの小さな作品は、初めて手に取る人にも入りやすい入り口となっている。「盆栽は難しそう」と構えてしまいがちだが、枝を整え、苔を撫で、葉を落とす。その一つひとつには意味がある。福川さんは文化や手入れの理由を丁寧に伝え、気負わずに楽しむ方法を真摯に教えてくれる。「手間をかけるからこそ愛着が生まれ、お金では測れない価値がある」と福川さん。せわしない日常に、植物と向き合うひとときは心を落ち着かせてくれる。そんな時間を届けたいと、今日も一鉢一鉢に向き合い続けている。

File 04

(有) 山本建具製作所

代表

山本 高士 さん

Q 造作建具の魅力とは？

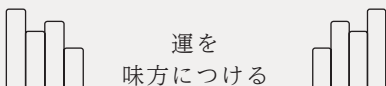


A 「一生もの。直しながら、ずっと付き合える存在です。」

造作建具は、住まいに合わせて仕立てる「一生もの」です。木は年を重ねるごとに色合いを深め、障子や襖も部材を替えながら長く使い継げます。山本さんは「既製品は便利ですが、廃盤になると修理ができずお客様が困ってしまうこともある。造作建具は困るからこそ価値があるんです」と語ります。家業に入ったのは19歳の頃。厳しい職人の世界で鍛えられ、28歳の時に父の病をきっかけに会社を継ぐことを決めました。以来20年以上、当社の現場で設計の意図や個性を、建具というかたちで支えてきました。現場では図面と耐久性の工夫で悩むこともありましたが、何より「快適に長く使えること」を大切にしています。「ただ作ればいいのではなく、その後の暮らしを思っていることが大切」との言葉通り、素材や納まりにもこだわります。高知県産のスギやヒノキは風土になじみ狂いが少なく、おすすめの材です。建具は直しながら長く使える「一生もの」。山本建具の仕事は、そんな確かなものづくりです。直して使い続ける建具のように、当社と一緒に本物志向の家づくりを支え、その魅力を次の世代へ受け渡していければと思います。

社長の本棚

第四回



運を味方につける

今回ご紹介するのはみなさん大好き、ドン・キホーテ創業者の安田隆夫氏の著書「運」です。34年連続増収増益を続け、売り上げ2兆円の大企業を一代で作り上げた安田氏の大成功の裏には「運」の存在があった、自らの運をコントロールし人生を切り開け！という言葉から始まるこの本。運という「運任せ」「コントロールできないもの」と思いがちだが、著書の中では幸運の最大化と不運の最小化が大きなテーマとなっている。

違っていて、運は「長期的」でツキは「短期的」でツキをコントロールするのは不可能だけど中長期的な運はコントロールできる、幸運が巡ってきた時には目一杯の果実を収穫し蓄えておき、不運が巡ってきた際の備えにすると語っている。その運をコントロールする上で非常に重要な要素として「集団運」という言葉が出てくる。安田氏の造語らしいけど、空気感と置き換えればピンとくる。人の成長や人となりを形成するものとして何が大切かと聞かれたら、一番大切なのは「環境」と答えているけど、まさにその環境が生み出すのが「空気感」であり、その空気感が生み出すのが「集団運」かもしれない。今当社でも、フクヤらしさとは何だろうという会話をよくするけど、人は人に影響を受け環境によって全てが決まるという意識で経営してきたのは間違いない。環境や集団から醸し出される集団運みたいなものは言語化できてなかったけど何度か感じた。組織に

流れる良い空気は人が人から感じるもので生み出され、その想いや感覚が組織の大多数の価値観になっていくのを見てきた。社内で生み出されるものだけでなく、外部から評価され賞をいただく、メディアに注目されるなど外から作られることもある。ポジティブやネガティブといった強い感情にも中間的なメンバーは引っ張られ伝染もする。その空気感から生み出される「集団運」は会社経営で見過ごせない。

安田氏は、運を落とす事案として相手の気持ちを推し量れない「他責」の人、私たちの成功ではなく私の成功を目指す人をあげ、逆に運を最大化するものとしては樂觀主義、リスクを取る、相手の立場になって考え行動する「指示と命令」ではなく「感謝とお願」と述べている。強い幸運を引き寄せる、人運がいいですね、ついてますねと言われる裏には、運を引き寄せる環境づくり・人づくりをしている経営者がいる。私もそんな経営者になりたい。



運ドン・キホーテ創業者「最強の遺言」
出版社：文春新書



福家 淳也

1970年高知県高知市生まれ。明治大学商学部卒業。1971年創業の有限会社福家ハウジング（フクヤ建設株式会社）へ改称。2代目。大学卒業後、東京の会社で営業経験を積み1996年に有限会社福家ハウジングへ入社。6年に有営業職として働いた後、取締役役に就任。現在、フクヤ建設代表取締役社長を務める。

この街に、ワクワクを創造する。

FUKUYAは「建築・不動産で、暮らし・空間・その場所に
新しい価値を生み、ワクワクを創造する」という企業理念のもと
家づくりだけでなく、公共民間事業やカフェ経営など
さまざまな事業を展開しております。



東京証券取引所に
上場いたしました

2024年11月



【資料請求・問い合わせ】

家づくりに関するお問い合わせ・資料請求
はこちら。個人情報の入力なしで、アンケート
に答えてご覧いただけるweb 簡易版パン
フレットもご利用いただけます。

こちらから→

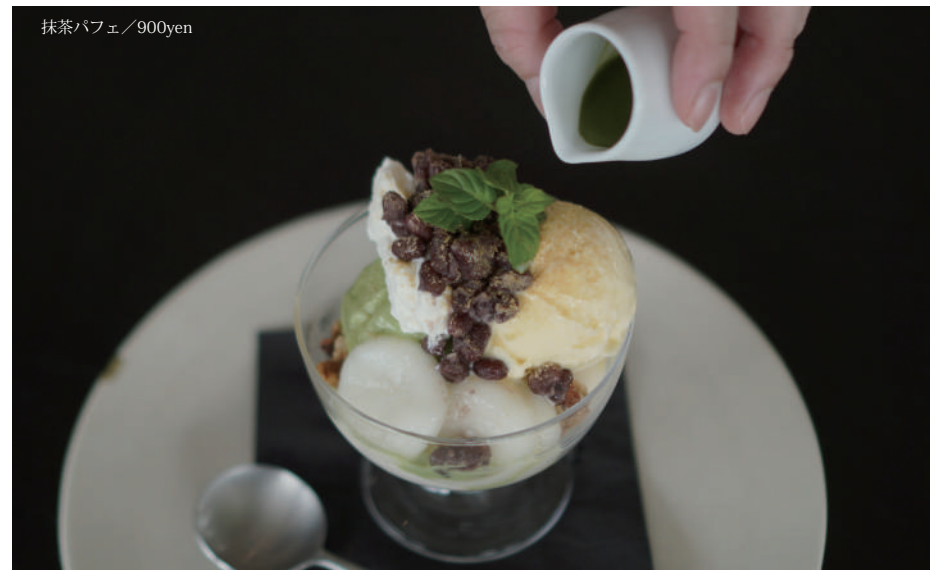
フクヤ建設 公式LINE
からもお気軽に
お問合せできます



@fukuya.kochi

フクヤ建設の公式Instagram では、Fuu 誌面の撮影写真や竣工写真、日々の暮らしの
風景、スタッフの紹介、イベント情報などをお届けしています。家づくりや日常を楽
しむきっかけに、ぜひのぞいてみてください。

melbaの、おやつ。



デザート監修
melba 上園さん

南国市でテイクアウト専門のケーキ屋さん
「melba」をひとりで営む。旬のくだものを使
ったタルトやショートケーキなど、素材に
こだわったシンプルなケーキが人気を呼
び、オープン時には行列ができるほどの人
気店。ご縁から、お店の傍らFLAG のデザ
ートメニュー全般の監修を担当している。

本社 2 階社食ランチが
食べられるカフェ

BISTRO & CAFE
FLAG

@bistrocafe_flag



ほろ苦さとやさしい甘さ、
秋の午後のごほうび。

やさしい甘さとほろ苦さを重ねた抹茶
パフェ。10月頃からの秋限定で味わえる特
別な秋の味わいです。ひんやりとしたアイ
スに、もちもちの白玉、ぶるんとやわらかな
豆乳ブランマンジェ。店内で手作りする小
豆は甘さを控え、抹茶のほろ苦さと重なり
合い、落ち着いた上品な味わいを生み出し
ます。ザクザクとしたナッツ入りグラノー
ラが心地よいアクセントとなり、別添えの
濃厚抹茶ソースをかければ、欲張りな味の
変化を楽しめるのも魅力。甘さは控えめで、
抹茶のほろ苦さとの重なりが大人の味わい
を引き立てます。最後まで重たくならず、
ゆったりと心地よく味わえるのは、監修を
手がける上園さんの繊細なこだわりによる
もの。食後にはホットコーヒーを合わせて
どうぞ。香ばしい苦みが余韻を引き立て、心
までやさしく満たされる、秋のごほうびの
ような豊かな時間を届けてくれます。

BISTRO & CAFE FLAG 通常の営業時間

モーニング 8:00 ~ 10:30 LO ※日曜日のみ
ランチ 11:00 ~ 14:00 LO

※最新情報はInstagramにてご確認ください

カフェ 14:30 ~ 16:30 LO

ディナー 18:00 ~ 21:00 ※4名様~予約制

個室・テラス

わんちゃんOK

授乳室あり